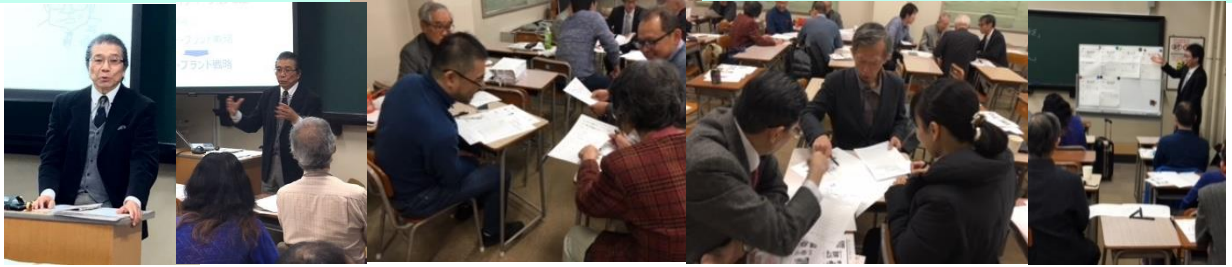


▲▼▲ 11月18日第52回クリエイティブサロン開催報告 於:東京海洋大学▲▼▲

講演会:『ネーミング開発会社のネーミング開発の進め方』

講演者:高橋 誠氏 (株)創造開発研究所代表・博士(教育学)日本創造学会理事、日本教育大学院大学名誉教授



今回、クリサロで「ネーミング開発」についてお話ししました。どうゆうわけか最近、ネーミングやブランドの話をする機会がとても多いのです。10月は大学関係者約80名に「大学のブランド戦略」、11月には広告関係者120人に「ネーミング開発」を話しました。創造学会の関係者の方々は、ネーミングやブランドについて必ずしも関心が高いわけではないと思いますが、皆さん大変熱心にお聞きいただき、ワークも真剣に取り組んでいただきました。当日は講義とワークショップを行いました。講義の概要は、以下です。

1. わが社の紹介:東京初のネーミング開発会社

私のライフワークは、創造技法の研究と実践です。この創造性実践の1つが「ネーミングの開発」です。私はネーミング開発の「Name Land™システム」を考えました。これは、ネーミングの課題設定から、発想、評価、商標調査、商標登録までの全プロセスを推進する仕組みです。わが社(株)創造開発研究所は、ネーミング開発の仕事をして1983年開始。大阪に1年前に出来たネーミング会社がありますので、東京初の会社と名乗っています。

わが社がつけた名前は、社名から商品・サービス名など約300あります。代表的なものは、ゆうパック、かもめーる、TOSTEM、BIG EGG、メルパルク、Teny、プラズマX、たまプラーザテラス、くるりんポイ排水溝、ハルメク、アトファイン等です。

2. 講義と演習:ネーミング開発の実際と進め方

講演とワークショップの内容は、以下です。

1. ネーミングがいかにか大切に、2. ネーミング開発の進め方、3. 創研ネーミング7技法、4. ネーミングを良いブランドにする、5. 創造開発研究所のブランド開発、6. ネーミング発想演習

最後の「ネーミング発想演習」のテーマは「新しい天ぷら粉」です。皆様から多くのアイデアを出していただきました。このテーマはわが社の案件ですので、皆様のご了解をいただき、「アイデアはいただきます」。どうもありがとうございました。(記事 高橋誠)

講演会:『目からウロコの社会学デザイン with W.S.』

講演者:高橋美江氏 グラフィックデザイナー、イラストレーター、絵地図師・散歩屋



さあ『ミエさん劇場』の始まり始まり〜 【起】イントロは、来場者との距離を縮めるヒッカケの席替え。「只券のS席があれば欲しいよね!」に同調した後方座席の参加者に、前の方のS席が空いているからと移動していただく。距離感や情報伝達でも重要な要素なので、まずは環境整備だ。次に“つかみ”にはいるところWS…脳みそ白紙状態でA3用紙に日本地図と都道府県名を書いてもらう。皆さん苦労してたね。講評はあとにしまし絵に入る。1枚の絵が2通り3通りに見える謎解きに、参加者はパズルを解くように楽しだまし絵にはまってい。そして最後に、実はだまし絵は物事を多面的に見る手法であり、まちを多角的に観ることに通じると着地点を示唆。【承】絵地図と散歩の話。日本人の生活感をハレ(非日常)とケ(日常)で表した民俗学者・柳田國男の考えをまちに応用した“お散歩民俗学”は私の絵地図や町歩きの基本。絵地図では可視化(=ビジュアル化)で、多くの人との共通言語が得え

られる。5w1hのhowだ。howを失敗したら5wは意味ないじゃ〜。まちのレイヤーの深部で得たケ情報はお宝。毎月7〜10講座(200人)をまちに案内するには、このお宝や“人たらし”で味方につけた地元民が強力なサポートをしてくれる。only oneは強し! 一般地図の正確さがイコール伝わるとは限らない。人の懐のストライクゾーンに飛び入るアナログ地図の表現が勝つことも多し。【転】WSの日本地図の講評。社会科の地図と図工の地図の大きな流れを認識。AKB48が描いた奇妙な絵地図で盛り上がる。実際の絵地図を手にとってもらう。画像投影も可能だが、そんな無粋なことを江戸っ子はしないよ。手に持って五感で感じる事が大事。ミウラ折りも体験。【結】今回初めて葬送の話もした。絵地図、まち歩き、葬送、すべての根底に流れるのは“デザインのココロ”。毎回の講演は「情報と表現」の実践のステージ。えっ、名刺に書かれた「真面目に不良」のココロは何かって? ウフフ…。(記事 高橋美江)